動物との共生のために

ペットは、今や私たちの大切なパートナーです。人間社会に溶け込み、その一部を担っています。ペットと仲良く暮らすには、絆を深めることが必要です。動物が好きな人も苦手な人も、正しい知識や理解があれば、人と動物が共生する社会を実現できます。
このパンフレットでは、以下の内容を解説しています。

- ペット飼育に対する考え方
- ペット飼育による問題を防ぐには
- ペットの健康と適正な飼育のために

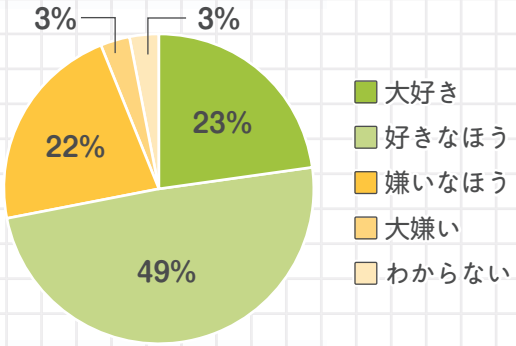
ペット飼育されている動物のうち、イヌとネコについて考えていきましょう。

ペット飼育に対する考え方

ペットを飼育するのは好き？嫌い？

国民の約４分の３はペットを飼育することが好き、約４分の１は嫌いと答えています(平成22年内閣府世論調査)。ペット好きな人が多いですが、嫌う人も一定数いることがわかります。それぞれの理由は何なのでしょうか？

ペットを飼うことは…



「ペットを飼育することによって、飼い主または飼い主の生活にどのような影響を与えると思いますか？」という問いに対し（令和元年内閣府世論調査）、

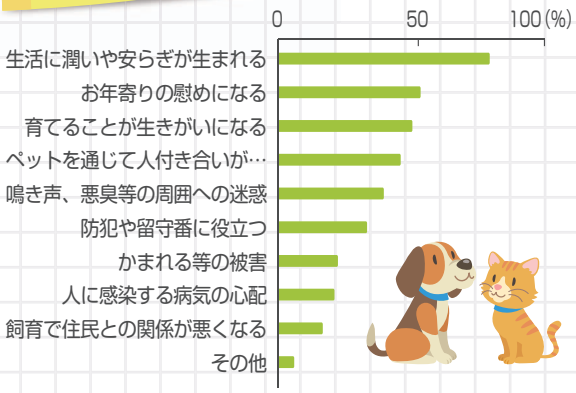
ポジティブな声として…

「生活に潤いや安らぎが生まれる」を挙げた人の割合が75%と最も高く、次に「お年寄りの慰めになる（50%)」、「育てることが生きがいになる（48%)」、「ペットを通じて人付き合いが深まる（43%)」の順で続きます。

ネガティブな声として…

「鳴き声、悪臭等の周囲への迷惑(37%)」 、「かまれる等の被害(21%)」、「人に感染する病気の心配(20%)」、「飼育で住民との関係が悪くなる(16%)」が挙がっています。

ペットを飼うと…



このように、ペット飼育を肯定的に考える理由には心理的なものが多く、否定的な理由には物理的・社会的なものが目立ちます。

ペット飼育によって得られる心理的な効果

仁愛大学の心理学科で行われた研究の一部をご紹介します。

イヌの存在が人物の印象に与える影響

イヌと一緒にいる人は、親しみやすい印象を与えることがわかりました。散歩などでイヌを連れていると、見知らぬ人と言葉を交わす機会が増えることと関係していると考えられます。

ネコの喉鳴らし音のリラックス効果

ネコが喉を鳴らすゴロゴロ音を聞くと、ネコの飼育経験に関わらず心拍数が落ち着いてきます。また、とくに猫の飼育経験がある人はゴロゴロ音を心地よく感じていることが明らかになりました。

ペット飼育による問題を防ぐには

人と動物が共生して快適に暮らしていくためには、まず動物の習性を正しく理解し、しつけをすることが欠かせません。また、社会や近隣に迷惑をかけないためには、飼い主がマナーを守って、最後まで責任をもって飼う必要があります。

イヌやネコの習性を知りましょう

動物の習性を知ることで、ペットが苦手な人や飼育経験のない人もどう行動したらいいのか理解できます。

イヌの場合

- 正面から近づいたり見つめると敵意を感じる
- 走るものを追いかける
- 寂しさ、交信、ストレスから遠吠えをする
- 片足を上げておしっこをする
- 穴を掘る・収集癖がある
- マウンティングをする

出典：ペットライン株式会社HP

ネコの場合

- 自由気ままでツンデレ
- 走るものを追いかける
- なわばり意識が強く、家の中でもパトロール
- 狩猟本能を満たす遊びをする
- きれい好きで、とくにトイレに神経質
- 夜行性で昼間はほとんど寝て過ごす

出典： ライオンペット株式会社HP

イヌやネコを上手にしつけ、正しく飼いましょう

ペットたちは、人が決めたルールに従うことで人間社会に適応していくことができます。ペットが苦手な人の迷惑にならないしつけをすることも大切です。しつけは生後２～３か月を目安に始めましょう。

イヌの場合

- 名前を覚え、アイコンタクトができるように
- トイレトレーニング
- 体に触られることに慣れさせる
- 「待て」や「座れ」などを教える
- 散歩を通じて社会性を身につける
- 無駄吠えさせない

上手にできたらほめましょう。ご褒美を活用するとよりスムーズです。良くない行動には反応しないことも有効です。散歩時はリードにつなぎ、フン尿の後始末をしましょう。

出典：日本ペットフード株式会社HP

ネコの場合

- 飼育環境に慣れさせる
- トイレトレーニング
- 撫でながら健康チェック
- キャリーバッグに慣れさせる
- 爪とぎの場所を教える

ネコはトレーニングを好みません。しかし、基本的なしつけをすることは十分可能です。繰り返し、根気強く行いましょう。甘えで鳴いているときは無視することも効果的です。

出典：株式会社ペティオHP, au損害保険株式会社HP

ペットの健康と適正な飼育のために

健康診断と予防接種を受けましょう

人と違って、動物は体の不調を口で飼い主に伝えることはできません。健康診断は年に１回、シニア期（イヌは７歳前後、ネコは１０歳前後）になったら定期的に年２回受けるようにしましょう。

ペットがかかる感染症の中には、命に関わるものや人にうつるものがあります 。予防接種はそれらを未然に防ぎ、ペットと飼い主、そして周りの健康を守ります。

狂犬病ワクチン（イヌ）

極めて危険な感染症で毎年の接種が義務づけられています。接種後に「狂犬病予防注射済票」の交付を受けましょう。住んでいる地域の市役所への登録も必ず行いましょう。

混合ワクチン（イヌ・ネコ）

一度の接種で複数の病気を予防できます。危険な感染症を予防できるコアワクチンと比較的危険ではない感染症を予防できるノンコアワクチンの２種類があります。

不妊・去勢手術をしましょう

繁殖させる予定がないのなら、不妊・去勢手術をしましょう。病気のリスクが減り、繁殖に関わるストレスが低下するため、穏やかな性格になって飼いやすくなります。

ネコは繁殖力が高い動物です。年に3回ほどの発情期があり、一度の出産で４～ ８頭ほどの子ネコが生まれます。その生まれた子ネコたちも半年ほどで繁殖可能になり、放置しておくと数十頭になることも！

マイクロチップを埋めましょう

マイクロチップがあれば、はぐれてしまっても簡単に身元が照会できます。様々な情報の登録・更新も忘れずにしておきましょう。また、首輪には連絡先を書いた迷子札を装着しましょう。

動物たちは、人間社会で様々な活躍をしています。体が不自由な人を助ける補助犬や公機関の捜査活動に利用される警察犬などの使役犬がいます。また、アニマルセラピーでは、動物との交流を通して、心を病んだ人や体が不自由な人の症状が改善することもあります。動物との強い絆が、私たち人間の生活を支えることにつながっているのです。

CPP Career Program of Psychology Jin-ai University

このパンフレットは、仁愛大学人間学部心理学科で実施されている心理学キャリア演習Ｉの一環として、池端上総、伊藤愛理、北村泰樹、髙木恵が「未来協働プラットフォームふくい推進事業」の支援を受けて、福井県健康福祉部健康医療局医薬食品・衛生課と協働で制作しました。

2024年３月発行